

令和5年度（2023年度）

東海市幼児教育研究協議会事業報告

令和6年2月27日（火）

幼児教育研究協議会事務局

1 連携・交流事業

(1) 保育参観・研究協議

別紙参照

(2) 保育園児・幼稚園児・認定こども園児との交流

- ・子ども同士も保育者同士も実践的に交流を楽しめ、有意義な時間を過ごすことができた。
- ・「名刺交換遊び」を交流遊びに取り入れたところ、知らない友達の名前を知ることができ、親近感を持って活動に参加することができた。帰園後も友達の名前を保育者や友達に伝えたり話題にしたりしていた。
- ・少人数で活動したため、友達同士の距離が近くなり緊張感も少なく笑顔で関わっていた。
- ・後半の時期に複数回行うことで、入学への期待や入学後の安心感につながると思う。
- ・幼稚園児・保育園児に限らず小学生とも交流ができると、入学してからの安心感につながる

<今後の予定>

令和6年3月8日（金）3月13日（水） 雨尾幼稚園と大田保育園

2 研究紀要42の発行

- ・「充実した遊びにつながるために」
—保育者の関わりについて考える— 東山保育園
- ・「子どもの深い学びにつながる保育者の役割りを考える」
—子どもが主体的に遊びを進めていけるように— 平洲保育園
- ・「オリジナルUNO」 明佳幼稚園

《木庭保育園》

◆3つの資質・能力の視点から捉える

「10の姿」の読み取りから、クラスの子どもの育まれている資質能力について整理する。

「知識及び技能の基礎」

- ・経験から色を理解し、絵の具の混色を試す。紫色ができる「あじさいみたい」と言う。
- ・色を間違えて塗ったときに、白色を上塗りして下地を消したり、下地よりも濃い色を上塗りしたりする。
- ・絵の具と水の量を調節する。
- ・洗った筆の水滴が床に落ちないように、筆の下に手を添える。
- ・用意するチケットの枚数から数への興味、数の予測。
- ・自分のイメージした色が正しく出るため、意図的に白色の画用紙を選択する。

「思考力・判断力・表現力の基礎」

- ・友達の同意を得ながら絵を描く。
- ・例え間違ったとしても、次にこうすればよいと判断して実行する。
- ・自分のイメージした色を作りたいという思いから、継続して活動する。
- ・どの色を混ぜたらよいか、思考錯誤する。
- ・下線②赤ちゃんでも無理なく参加できる催しにしたいことを友達に伝え、それを聞いてもらい決めている

楽しい会にしたいな

- ・保護者に見てもらいたい気持ちから、活動に意欲的になる。
- ・失敗をしても次にどうしたらよいかを考える。
- ・絵の具を出しすぎた子に「大丈夫だよ」と安心させている。
- ・書く人や枚数を数える人など役割分担し、協力していた。

- ・身重である母親の体調や②赤ちゃんのことも考えて、配慮や思いやりの気持ちを持ち進めていた。
- ・②友達の意見を取り入れて話し合いをすすめている。
- ・⑨友達の姿に目を向けて、その子がわかりやすいようにゆっくりしたテンポで教えようとする。
- ・「一緒にやってくれない？」と誘って片付けをする。

「学びに向かう力・人間性」

◆一体的に育まれるとは

②⑨はドキュメンテーションより引用

- ・「お楽しみ会」に向けて、グループごとに活動する中で、友達のつぶやきに耳を傾けたり、発言を取り入れたりして経験を増やしながらか、継続して活動している。
- ・招待する母親の体調や、兄弟への心配事を友達に伝え、内容を決めようとする姿がある。自分たちが楽しければよいのではなく、お客さんの立場になって考える力の芽生えが、みられる。信頼できる友達とリラックスして活動しているからこそ、伝え合いが活発に行われると考えられる。
- ・豊富な絵の具体験から、色を調節したり友達が失敗したことの調整を自分の経験から見通し「大丈夫」と声をかけたりしている。また、周りを汚さない配慮が自然にできていた。このことが基盤となり、今の時期に自分たちの描いている活動に力を注いでいくことができる。

◎年長児になるまでに積み重ねた経験として・・・

- ・身の回りのものや、色々な素材・材料を使って自由に遊ぶ経験を積み重ねる。
- ・自分のイメージを言葉に出して相手に伝えたり、遊びに集中しながらも周りの友達の発信やつぶやきに気づき、遊びに取り入れたりしようとする。
- ・受容的で応答的な関りの中で安心感を持って過ごし、保育者や友達に対して信頼感を持って生活する。招待する人の気持ちになって準備を進める姿がある。

◆3つの資質・能力の視点から捉える

「10の姿」の読み取りから、クラスの子どもの育まれている資質能力について整理する。

「知識及び技能の基礎」

- ・試行錯誤してメニュー表を作る。
- ・間違えた文字を隠すための上張りの紙を、文字の大きさに合わせて切る。(経験から感覚的にわかる)
- ・カラービニールの特性やはさみの性能を理解し、指先を器用に使う。はさみの使い方を周知し、ヤシの葉のリアルさを曲線で表現する。
- ・アクセサリー作りで②③感覚的に足し算をしたり効率的な数え方をしたりする。宝石と砂の色の違いを理解。
- ・⑤経験したことを遊びに取り入れる。
- ・日々の積み重ねが、片付けなど基本的な生活習慣の習得につながる。

「思考力・判断力・表現力の基礎」

- ・友達からの影響で文字に興味を持つ。
- ・幹は太くて長いため、足に挟んで切る。
- ・素材によってテープの種類を使い分ける。(セロハンテープ・ガムテープなど)
- ・アクセサリー作りでリボンの長さや幅を首にかけて測ったり調節をしたりする。
- ・②実物で数の比較をしたり、実際に数えたりして数への興味が深まる。
- ・④自分が経験したことを語り、より遊びが楽しくなる方法を伝えていた。

ぞうぐみ万博をやろう！

- ・メニュー表作りで、間違いを友達に教えてもらう。
- ・間違えたときに諦めなくても他の方法があることを教えてもらう。友達とのつながりを感じながら遊ぶ。
- ・ガムテープを切れない子の手伝いをする。
- ・ヤシの木を2人で協力して作る。

- ・時計に輪ゴムをつける場面で友達が手伝い「できたよ」「できたね」と喜び合う姿。
- ・泣いている子へ思いやりを持ち「ちょっと待ってあげて。」と声をかける。
- ・友達に教えてほしい時には自分から聞く。

「学びに向かう力・人間性」

②③④⑤はドキュメンテーションの下線部分

◆一体的に育まれるとは

- ・運動会の万国旗に興味を持ち、絵本や図鑑で外国の特色や食べ物を必要に応じて自由に調べ、遊びに取り入れている。多国籍の友達と一緒に学んでいく機会は今後増える。多様性の時代に外国のことを知る機会となっている。
- ・道具の使い方をマスターし、工夫して切る楽しさを友達と共有したり、感覚的に数を数えたり長さを測ったり、手分けして片づけたりする経験をもとに、自ら遊びに取り入れていく力が育まれ学習意欲につながる。
- ・「ぞうぐみ万博をやりたい」という目的意識を皆が持ち、役割を分担して活動する中で、自分の活動だけでなく、友達の活動にも気を配り、友達に失敗をカバーするアイデアを提案したり、教えてもらい安心したりして、友達とのつながりを感じながら活動している。
- ・家庭で経験したことを思い出して周りの友達に伝えたことが遊びに取り入れられ自信となる。

◎年長児になるまでに積み重ねた経験として・・・

- ・身の回りのものや、色々な素材・材料を使って自由に遊ぶ経験を積み重ねる。
- ・自分のイメージを言葉に出して相手に伝えたり、遊びに集中しながらも周りの友達の発信やつぶやきに気づき、遊びに取り入れたいとする。
- ・受容的で応答的な関わりの中で安心感を持って過ごし、保育者や友達に対して信頼感を持って生活する。
- ・招待する人の気持ちになって準備を進める姿がある。

◆3つの資質・能力の視点から捉える

「10の姿」の読み取りから、クラスの子どもの育まれている資質能力について整理する。

「知識及び技能の基礎」

- ・パトカーに「POLICE」の字を書くとき、本物らしく書きたいため、段ボールを立てて書いていた。
- ・全体的なバランス、文字の大きさ、書く場所を考えて書く。
- ・道具や素材の置き場を理解し、使い方を知っている。片付けの際に、はさみの刃の部分をもって自然に片付けをする。
- ・頭のサイズを紐で測り長さの調整をする。
- ・固形絵の具や水入れの使い方がわかっている。
- ・筆の太さを考えて使い必要に応じて筆を交換する。
- ・レシートの存在を知っていて、本物に似せて作ってお

「思考力・判断力・表現力の基礎」

- ・自分たちの目標まではやり遂げたい。
- ・実物のパトカーに近づけようと工夫する。
- ・自分の思いがあり、自分なりに工夫して作る。
- ・黄緑の絵具がなくなった時に、どうするのか、工夫する姿がある。
- ・自分たちで役割分担し、選曲、衣装チェンジなどをしていった。
- ・楽器の音色の高低差を意識していて表現する。
- ・発表の時は、しゃべり言葉ではなく意識していた。
- ・質問されたことを相手に伝える言葉を選んで答える

スペシャルランドを作ろう

- ・1台目の製作の経験から、自分たちが納得いくものを作りたいという思いを持ち、パトカー2台目を製作する。
- ・自分がイメージしているものを作りたい、やりたいという思いを持ち自分でやってみて完成に向かう。
- ・トイレに行くときに、グループの友達に声かけをして確認をとっていた。(抜けるけどその間お願いね)
- ・やりたい遊びを持続するためには協力することが大切であることをわかっている。
- ・友達と課題について考えて解決する。

「学びに向かう力・人間性」

◆一体的に育まれるとは

- ・スペシャルランドを作りたいというクラスの目標に向かい、リアルさにこだわりながら、工夫して遊んでいる。友達と協力して作りあげていく経験を今までもしてきたため、友達との信頼関係が培われ、慌てることなく安心して活動に臨む。
- ・道具をうまく使いこなし、工夫する姿がある。イメージするものを友達と共有し作り上げていきたい。そのため、必要に応じて筆を選択する、メジャーの代用に紐を使う、楽器の音色にこだわる等、理想に向かい丁寧に制作に取り組み納得したものになりたいという思いがある。そのために細かい作業もあきらめることなく活動が持続していた。

◎年長児になるまでに積み重ねた経験として・・・

- ・自分のイメージしたことを形にするために、見本を観たり友達と話し合ったりし、全体のバランスや文字の大きさを考えて丁寧に細かく制作する。
- ・〇〇がなったり、〇〇ができなかつときにどうするか？と代案を考え遊びに取り入れる経験を積み重ねている。
- ・固形絵の具、はさみ、段ボール、どんぐり等の自然物、輪ゴム、ポリ袋、紙皿、セロハンテープ、ガムテープ、マジックなどに触れて遊び、その使い方や特性をある程度知っている。

◆3つの資質・能力の視点から捉える

「10の姿」の読み取りから、クラスの子どもの育まれている資質能力について整理する。

「知識及び技能の基礎」

- ・文字の理解ができている。わからない子にひらがな表を見せて教えている。
- ・時間割表を作るときに、定規を使って線を引くことを知らせていくと技術向上につながる。
- ・体重の表示、数字や点の位置をそれとなく理解し、数字の大小や数を感じ覚的に理解している。
- ・実際に体験したことを思い出し今まで体験してきた技術を使い再現しようとする。
- ・デジタルのフォントにより実物に近づけたい。
- ・形をかたどる、形を知る。
- ・“起立”“礼”など学校の情景を思い浮かべて言葉遣い

「思考力・判断力・表現力の基礎」

- ・好奇心・想像力・小学校への期待を持ち時間割表作成
- ・学校ごとに保育園での遊びも織り交ぜている。
- ・友達と進める姿、大きさの比較、測定出来ない時に試行錯誤して解決しようとする。
- ・数字とデジタル数字の形の違いに気づいて使用する。
- ・答えに関連するヒントを、機転を利かせて出す。
- ・友達同士、自由な発想を共有し受け入れる。
- ・「先生」になり切って言葉使いを工夫する。
- ・発表場面で相手がわかりやすい言葉を選んで質疑応答する。自分の思いを言葉にして表現する。

小学校ってどんなところ？

- ・友達を待つ、友達が困っていたら助けようとする思いやりがある。
- ・相手の気持ちを考えて、気づき行動する。
- ・間違っても答えたい、挙手した友達を当てたいという思いから、何度も遊びを繰り返す。

- ・お互いの得意なことを理解し合う。
- ・発表場面で相手に対し「ありがとう」と言ったり、発表が終わったら拍手をするなどの態度が身につけている。

「学びに向かう力・人間性」

◆一体的に育まれるとは

- ・小学校での身体検査がきっかけとなり、記憶をたどりながら数人で身体検査ごっこが始まった。その後じわじわとクラス全体の遊びへと広がり、小学校へのイメージが膨らんできた。
- ・黒板の色を思い出しながら絵の具を混ぜて試したり、時間割、身体検査、視力検査で使う道具を再現したりしている。自分たちの経験から、丸い型をなぞってランドルト環（視力検査Cのマーク）を書いたり、体重計のデジタルのフォントに気づいたりして実物に近づけようとする。
- ・先生の立場、質問者の立場、回答者の立場で立ち振るまったり考えたりし、また友達の発言や考えを尊重する姿が見られる。

◎年長児になるまでに積み重ねた経験として・・・

- ・小学校は保育園とは違うことを子どもなりに感じ、先生になりきったときの言葉使いやヒントの出し方、相手がわかりやすい言葉を選んで質問するなどの技術が身についてくる。
- ・イメージしたことを形にするために、自分の技術や知識を使う力が身についてくる。
- ・立体物を使ったり、自分たちで作ったりして、よりリアルに再現する力が積みあがってくる。
- ・友達を大切にしたり、尊重する気持ちが育まれ、相手の立場に立って物事を考えることができるようになる。

今後幼保小でできること

(参加者の意見を集約したものです)

《知識・技能》につながる

- ・物の置く場所が決まっていたり、自分の持ち物が整理整頓されていることが心地よいという感覚を幼児期から育てる。
- ・ドッジボール等、普段の子どもの好きな遊びを小学校でも取り入れていく。
- ・近隣の小学校のチャイムの音、掃除をしている姿等を意識的に幼児に見せていく。
- ・小学校まで散歩したり校内を見学をさせていただくことは、子どもが期待と安心をもって入学できることにつながるため計画したい。

《思考力・判断力》につながる

- ・発表する経験が自信につながる(自分の意見をいう、相手の話を聞く)ことを意識して指導する。その際に、少人数で話し合い発表する場があると、自分の気持ちを表現しやすい。発表する活動を段階的に行うことが子どもの安心につながる。
- ・保育園での遊びや活動、子どもの得意なこと、自信のある事など情報提供し、小学校での継続的な学びや意欲について共通理解する。
- ・子どもは褒められることが力になる。子どもが得意なことを見つけて自信を持てるようにする。子ども自身が、自分はすごい!と思える経験が幼保でできるとよい。
- ・子どもの興味を引き出すよう環境を整え、用途や目的に合わせて道具や素材を自分で選択し使う経験を、幼保小で継続して行っていくことができるとよい。

《学びに向かう力・人間性》につながる

- ・協同遊びは学びの原点となるため、幼保小で継続して協同的な遊び・学びの経験をたくさん持ち積み重ねていく。また、遊びの中で友達に認められる経験が自信につながる
- ・椅子に座る機会が多くなる小学校では、スタート期は子どもが飽きないような工夫がされている。保育園では、子どもは長時間椅子に座れることを目的とはしていないが、必要に応じて座ることができるような環境は確保している。幼児期に夢中になって遊ぶこと、「遊びほうけること」が学びの力の原動力となり、就学後の子どもの集中力を高めることにつながっていく。
- ・小学校とのギャップは、お互いが見合う機会を持つことで解消できるのではないか。
- ・幼保小の先生や子どもが交流する機会をもつ。(人、場所の経験)実際に交流することで、イメージが沸いたり知っているという安心感につながり段差が縮まる。
- ・風揚げ等で小学校のグラウンドを借りるなど、小学校への訪問を具体的に検討する。
- ・小学校へ足を運んでほしい。小学生が小さい子のお世話を自らすることで、意欲につながる。

《その他》

- ・小学校の先生に幼保の子どもの姿や生活を知ってもらえる機会を増やす。
- ・情報交換会では、家庭環境やその子のおかれている背景も伝えていく。
- ・クラスだより、ドキュメンテーションを持っていったり送ったりし、保育園の様子を知ってもらう。
- ・相互体験交流には一年生の担任に参加していただき、子ども理解・幼児教育理解をする。